

大洪水の被災民を救え

医師協
アジア
連絡

ネパールに2人派遣

来月には生活物資

戦火や災害に苦しむ人々の医療救援を続けているアジア医師連絡協議会（AMDA、菅波茂代表、本部・岡山市）は、大洪水に見舞われたネパールで被災民の救援に当たることを決め、三十日、日本人医師二人を派遣した。同協議会はすでに紛争地域のソマリアに医師を派遣しているが、災害で緊急出動するのは初めての試み。

福岡市東区の岩永資隆医師（三）と東京都大田区の北角嘉徳医師（三）が同協議会のアジア多国籍医師団に救援を要請し、ネパールでは、インド国境に近い東部地区で今月二

十日ごろから大雨が降り続き、大洪水や山崩れが発生。同医師団現地事務所によると、約二十五万人が家を失った。飲料水や食料、生活用品が不足し、コレラの発生も心配されるという。

岩永、北角両医師は一、二か月にわたり、巡回医療を続ける。来月中旬には、岡山市内の七団体から第二

陣の医療スタッフ約十人も派遣され、現地に近いバングラデシュの首都ダッカを本拠地に大がかりな救援活動を進める。

来月中旬には生活物資も送る予定で、菅波代表は「資金協力のほか不要な衣類やテントがあれば、協力して」と話している。問い合わせは、AMDA事務局（086・284・7730）へ。